

資源のみち委員会（第5回） 議事概要（案）

日 時 平成18年12月12日(火) 13時30分～15時30分
場 所 財団法人下水道新技術推進機構 6階会議室
出席者 委員長 津野委員
委員 貫上委員、堀尾委員、大谷委員、増田委員、清水委員、堀江委員、
尾関委員、小菅委員、竹中委員（欠席：高橋委員、横山委員）

議 事

- 1．資源のみち実現に向けた取り組みの体系化について
 - 2．下水道における省エネルギー対策について
 - 3．地域と連携した資源・エネルギー循環について
 - 4．評価指標の設定について
-

議事概要

資源のみち委員会最終報告について

関係者の連携を進める上での障壁や制度の見直しの必要性について整理すること。

最終報告の中に、官民連携や住民連携の内容を具体的に明記すること。

P D C Aサイクルの流れを念頭におき、事業のチェック評価指標を考えること。また P D C Aサイクルがうまく回らない状況（制度等の制約）も整理すること。

各自治体が既に取り組んでいる省エネ対策について、データベース化すること。

具体的な取り組みイメージについて

環境と経済がうまく回る仕組みを前面に打ち出すこと。

技術開発やニーズ発掘に対する国の関与と支援を明記すること。

個々の機器の最適化から、システム全体としての最適化へと発想の転換を図る必要がある。そのためには民間事業者のノウハウを活用すること。

関係者の連携を進めるためには、大規模なデータベースとプログラムの開発及びメンテナンスが必要となる。

地域での連携においては、社会システム、制度設計を含めた都市計画を念頭におき、関係者お互いの情報を共有化することで、合意形成を図ることが重要となる。

評価指標について

指標の体系化、ガイドラインを示すこと。

様々な状況の自治体が指標を選定できるように、指標はもっと多くてもよい。